

# シュリンクバック対策用バインド

ケーブルに巻き付けて、シュリンクバックを抑制します。

## 特 長

- 取り付けスキルも工具も必要ありません。
- 腕金などに引っ掛けケーブルに巻き付けるだけです。
- 大がかりな工事は必要なく、既設のケーブル端末にあとづけで取り付けられます。
- 100年のケーブル製造経験から生まれたシンプルならせん構造です。



## 種 類

現地曲げタイプ	ケーブルサイズ (mm <sup>2</sup> )	全長 (mm)
	6.6kV CV 60	690
	6.6kV CV 100	725
	6.6kV CV 150	760
	6.6kV CV 200	790
	6.6kV CV 250	810
	6.6kV CV 325	845

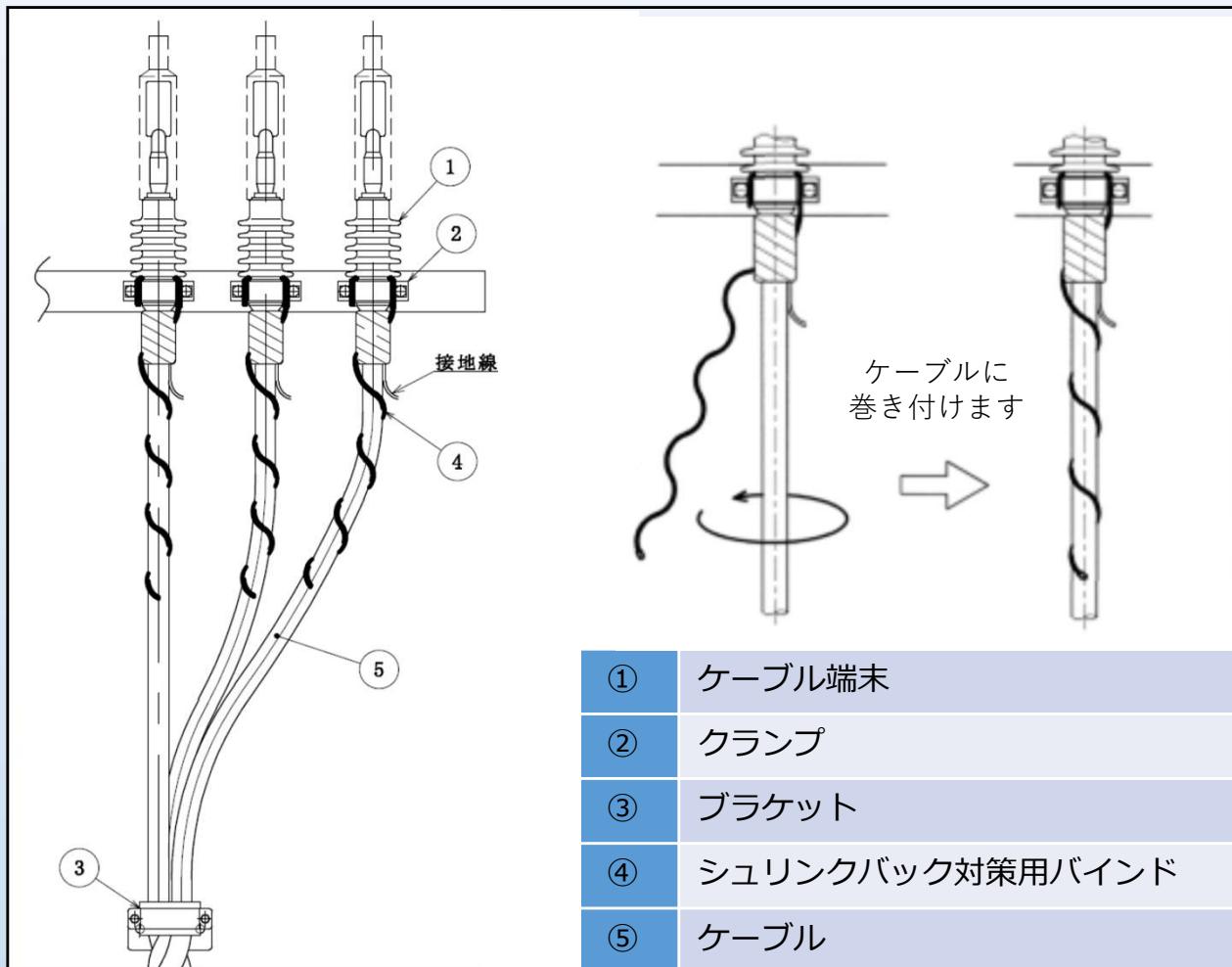
フックタイプ	ケーブルサイズ (mm <sup>2</sup> )	全長 (mm)
	6.6kV CV 22	650
	6.6kV CV 38	670
	6.6kV CV 60	690
	6.6kV CV 150	760
	6.6kV CV 250	820
	6.6kV CV 400	890

## 性 能

項目	性 能
初期性能	シースのスリップ量が5mm以下であること。（引張力：98N）
ヒートサイクル試験性能	スリップ量が20mm以下であり、ヒートサイクル後にケーブルを解体したとき、遮へい銅テープに異常がないこと。
繰返し応力試験性能	スリップ量が20mm以下であり、各部に異常がないこと。



## ケーブル端末への取り付け



## シュリンクバックとは・・・

ケーブル製造時の残留応力が日射や通電により開放され、シースが収縮する事象です。端末部でシュリンクバック現象が起こると、地絡事故に至る可能性があります。

